

助成活動実績報告書

企画名	自然エネルギーってなんだ？ 自然エネルギーパワーを見つけよう！
団体名	おかやまエコマインドネットワーク

① 活動の目的について

地域でエネルギーを地産地消することで環境への負荷を少なくすることができます。自然エネルギーや再生可能エネルギーについて知り、利用できる方法を理解することで私たちの生活スタイルを振り返り、価値観をふくめて変えていくことで環境をよりよい状態で維持し将来へ持続可能な社会をつくることの気づきを提供する。若い世代への働きかけを行うことで将来性に期待をすることとした。

② 内容について

I 「自然エネルギー体験 in めだかの学校」

平成25年8月24日（土）9時30分から12時30分

場所：岡山市環境学習センターめだかの学校内（岡山市北区建部町建部上609）

講師：堤 孝雄 氏（岡山県小水力利用促進協議会、おかやまエネルギーの未来を考える会所属）
高橋 三穂 氏（めだかの学校館長）

内容：みんなのまわりにある自然のパワー（太陽・水・風）でエネルギーができる方法を見たりして学習しました。講師より電気が作られる仕組みや電気が使われる物についてPPTで学習した。その後グループで分かれての学習を小水力発電の模型を実際に水量、落差などを講師とともに体験した。太陽光パネルの仕組みをパネルを見ながら理解した。風力はうちわで風をおこしてプロペラを回すことで小さなLEDランプに明かりがつくことを体験した。ソーラーバッタを教材に太陽の代わりに電球を照らして体験。めだかの学校の屋外に設置されている農業用の水車を見学し、地域で稲作に利用されていたことを講師より聞いた。前日から天候が悪く降り続いた雨で開催が心配されました。

参加者：45名（大人17名 子ども25名）

参加者の感想：○電気はどう作られているのかを実験したり、実際に説明をしてもらったのが理解できて楽しかった（小4）電気は水・風・太陽からもできることをはじめて知った。水車が水の力だけで動いているのをすごいと思った（小4）

II 「千年続く地域と暮らしを考える自然エネルギーツアーin 豊田市」

平成25年7月14日（日）～15日（月）

場所：愛知県豊田市 環境学習施設エコット eco-T お試し居住の館「板取の家」
里山暮らし体験館「すげの里」 千年持続学校・千年庵

講師：高野雅夫氏（名古屋大学大学院環境学研究科準教授）
戸田友介氏（M-easy 代表取締役）

内容:1日目は豊田市の環境学習施設を見学。施設の建設や運営費は市が負担、運営はNPOに任せるといった形の施設。随所に市民の手作り感あふれる工夫があり、環境学習の参考になった。夜は地元で地域おこしに奔走している戸田友介氏の講演、地元の方、高野雅夫先生とも交流した。2日目は移住予定の若者たちが地元の木材を使って手作りで建設している「千年庵」を見学。その後、高野先生監修により平成23年5月に完成したエネルギー自給100%施設「すげの里」を見学。太陽光発電、薪ボイラーによる温水暖房、地中熱利用などを実際に見ることができた。また、マイクロ水力発電による電気柵や糞尿によるバイオガス発生装置なども見学。高野先生が地域で持続的に生活していくにはどうすべきかというお話もいただいた。

〈参加者の感想〉★空気、水、食料、エネルギー、教育、医療を地域で賄えれば安心して暮らせる。千年後の子孫のために今何ができるか考えた。★同世代の戸田さんの話は衝撃的、エコハウスを実際に見ることができてよかった。

② この活動によって達成された成果

3. 11以降、再生エネルギーの利用と促進について議論されてきたが、年月を追うごとに記憶から薄れてきている現状がある。岡山県は自然に恵まれており今回は特に水資源と太陽資源をテーマに水を使って電気を起こす仕組みの見学や太陽光パネルを使って電気ができる仕組みを学んだ。いつも身近にある資源がエネルギーに結びつくことへの理解がすすんだ。また、若い世代への働きかけをすることで「身近に利用できるエネルギーがあること」「将来のエネルギーについて考える」ことへのきっかけや気づきとなった。この活動をとおしてはエネルギーの選択やエネルギーを考える事業への参画という視点にまではいたらなかった。

豊田市への研修は1泊2日ということで参加者は多くなかったが、自然農を目指す人や自然エネルギーの会社の人など若い人が参加してくれて、戸田氏や高野先生の話がこれからの生き方の参考になったという感想をもらった。このような人が地域に帰って地域の核となって活動していくことで持続的な社会が構築できると確信している。

③ 今後の計画・展望について

今年度は特にエネルギーについて若い世代に働きかけを行ってきました。若い世代を取り込むことの難しさを痛感しています。今後はネットワークを作りながら引き続き将来を担う世代へのアプローチを続けて生きたいと思えます。

テーマとして「食」に取り組んでいきたい。食の地産地消がエネルギーや環境、エコロジカルフィットプリントと深くむすびついており、それぞれが暮らしの中で取り組むことができることだと思えます。

私たちはさまざまな企画を通して環境を意識をすることで何かしら効果的な行動につながることを知りました。その環境の意識付けができるワークショッププログラムができることで「エコマインド(環境のことを考える人)」の裾野が広がると考えています。そのプログラムづくりを検討していきたいと思えます。

自然エネルギーツアーin 豊田



環境学習施設エコット視察



里山暮らし体験館「すげの里」



すげの里で利用されている薪ボイラー



バイオガス発生装置